

「阿蘇くじゅう国立公園」選定

環境省は7月25日、国立公園の魅力を高め外国人旅行者を増やす取り組み「国立公園満喫プロジェクト」のモデル公園として、阿蘇くじゅう国立公園など8公園を選定しました。

阿蘇くじゅう国立公園が選ばれた理由には、1000年以上続く野焼きによる広大な草原など観光資源の潜在的価値があることや災害からの復興などが挙げられます。

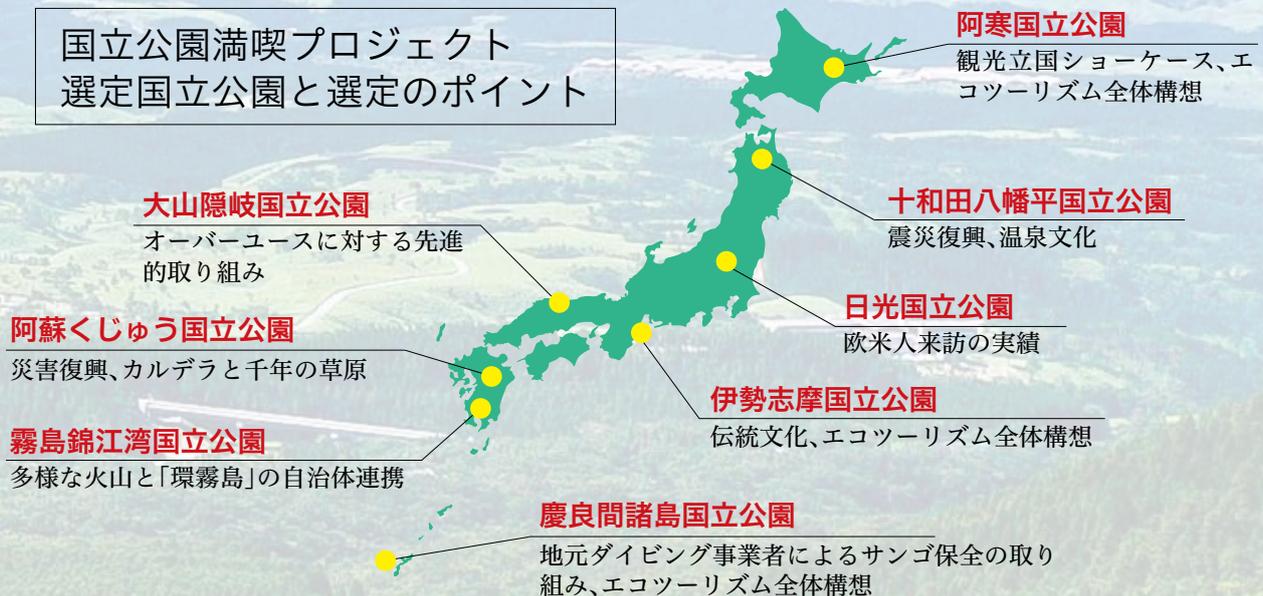
環境省では、2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人にすることを目標に掲げ、まずは選定された8公園において、先行的、集中的に取り組みを推進していき、今後、全国の国立公園で展開される予定です。

一昨年に指定から80周年を迎えた阿蘇くじゅう国立公園。今月号は、熊本県と大分県の2県(5市6町2村)にまたがる同公園の魅力に迫ります。

国立公園満喫プロジェクトの目標とする取り組み

今後4年間をかけ8公園の個性に合わせ進められます。

- 満喫メニューの充実・支援
 - ・インバウンドの受入れ環境の整備
 - ・質の高いガイドの育成
 - ・保護すべき区域と観光に活用する区域の明確化
- 上質感の創出
 - ・ビューポイントを核とした優先改善
 - ・ナショナルパークにふさわしい街並み景観の形成
 - ・海外の富裕層も惹きつける質の高い民間施設の円滑な誘致
- 海外への情報発信強化
 - ・海外への効果的な情報発信
- 観光資源の有効活用を目的とした関係省庁や関係自治体の一体的な取り組みの強化
 - ・地域協議会の設置

国立公園満喫プロジェクト
選定国立公園と選定のポイント

草原のかほり、火山の呼吸。風が遊ぶ感動の大地 阿蘇くじゅう国立公園

指定日 1934年(昭和9年)12月4日 面積 72,678[㍍]

関係市町村 (熊本県)阿蘇市、菊池市、大津町、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村
(大分県)別府市、由布市、竹田市、九重町、玖珠町

阿蘇くじゅう国立公園は、昭和9(1934)年に誕生しました。本公園の大きな特長は、大カルデラにそびえる阿蘇山やその北に連なるくじゅう連山などの火山群、そして、その周囲に広がる雄大でなだらかな草原です。

公園南部の阿蘇山の周辺では、噴煙を上げる中岳の火口や美しい円錐形をした米塚、広大な草千里ヶ浜、それらを取りまく火口原と外輪山など、雄大で素晴らしい風景を連続して見ることができます。

また、公園中部のくじゅう連山の周辺では、火山特有の風景地が点在するほか、久住高原や飯田高原などの広大な草原、さらにはタデ原湿原や坊ガツル湿原など学術的にも貴重な湿地など、見どころが豊富な地域です。

公園北部には、別府や湯布院などの温泉の源でもある鶴見岳や由布岳が美しい山容を誇っており、山稜からは別府湾から由布院盆地、くじゅう連山までを一望することができます。

この国立公園の面積の約75%を占める阿蘇地域。そのうち阿蘇市には、本公園を代表する自然・観光資産があります。特に阿蘇五岳からなる中央火口丘を中心に形成される世界最大級のカルデラは、本公園の象徴的な景観として、観光客を呼び込む資産の一つとなっています。

長崎、熊本、大分を結ぶ九州観光ルートに位置し、やまなみハイウェイなど道路が整備されアクセスしやすく、ドライブや登山、温泉保養、スポーツなどさまざまな利用形態で楽しむことができ、年間約2,241万人が訪れる日本屈指の国立公園です。

阿蘇くじゅう国立公園の4つの大きな特徴



1



2



3



1 南北約25km、東西約18kmに及び世界最大級のカルデラ。火口付近は荒々しい景観だが、火口縁から遠ざかるにつれて多くの植物が生育する草原となり、穏やかな景観が広がる

2 特徴的な動物としてはチョウ類があげられ、草原の植物を食草とするオオルリシジミ(食草:クララ)やゴマシジミ(食草:ワレモコウ)などの希少種が生息する



4

3 高岳のミヤマキリシマ。火山の周辺では、火山性ガスの影響により、ミヤマキリシマやコケモモなどの特徴的な植物が群落を形成しており、独特の景観を呈する

4 春になると一斉に行われる野焼き。茅野や放牧地などとして活用するために、草原が樹林へと移り変わらないように、1000年以上前から続いている営み